

## シシャモの河川遡上予測について

北海道立総合研究機構  
栽培水産試験場

シシャモの河川遡上期について下記のとおり予測を行いましたので、終漁日の決定の際の参考にしてください。

道南太平洋海域のシシャモは産卵期になると、雌の卵巣の生殖腺重量指数（GSI＝卵巣重量÷体重×100）が25、すなわち卵巣重量が体重の1/4に達したころに河川へ遡上を開始することが知られています。そこで、GSIが25に達する日を推定することで遡上日を予測しています。水産試験場では、平成25年10月7日から11月1日にかけて鶴川沖、日高富浜沖で漁獲されたシシャモ雌（11サンプル 868尾）の成熟度調査を実施しました。

調査期間中の漁獲物のGSI値は、平成23年と類似したペースで推移していました。成熟速度が速まった10月下旬以降、10月18日～10月29日のデータを用いて計算した結果、GSIが25に達する日は11月15日ころになると予測されました（下図）。一方、過去の調査でGSIの予測値が25に達する日から数えて2～8日後に河川でのふくべ網の漁獲ピークがみられていたことから、**遡上盛期は11月17日～11月23日ころ**と予測されました。（\*昨年まではGSIの予測値が25に達する日を遡上開始日としていましたが、遡上開始日の定義が曖昧であることから、今年は遡上盛期の予測としました。）

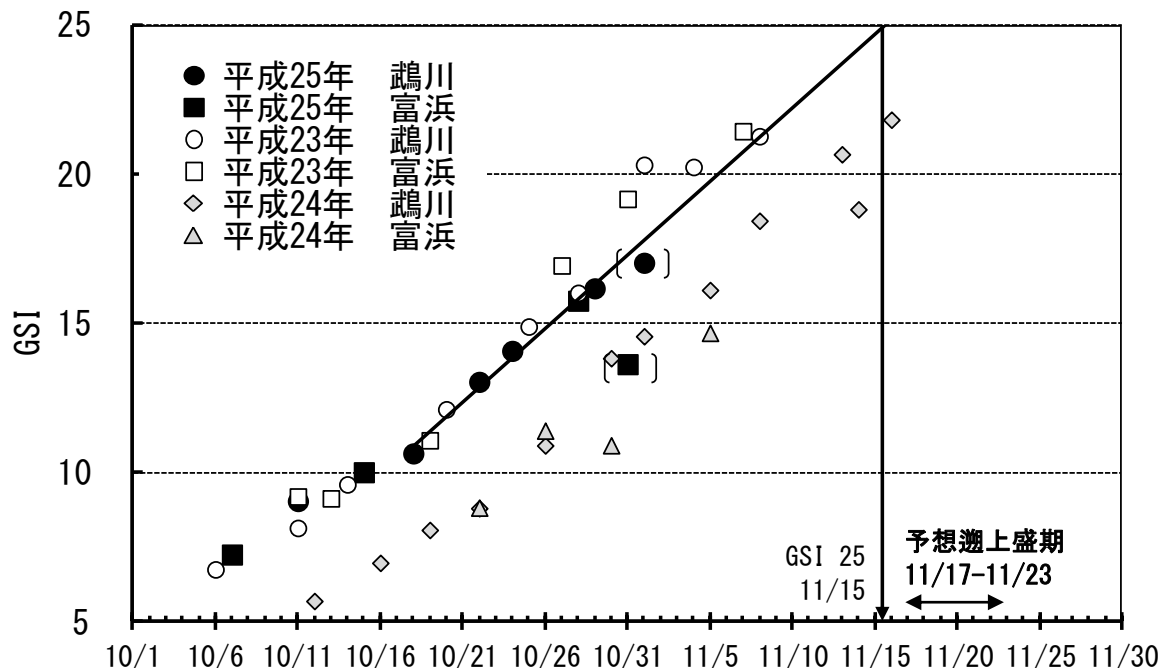


図 生殖腺重量指数の変化から予測したシシャモの遡上盛期

[ ] の値は全体の傾向からはずれることから予測には用いなかった。

今年も漁獲の主群とは成熟度の異なる群が海域に混在していると考えられることから、それらの資源量によっては全体の遡上盛期にズレが生じる可能性もあります。しかし、シシャモ資源の維持安定のために産卵親魚を確保するという観点からは、遡上盛期前にできるだけ早く終漁することが望ましいと考えられますので、**さけます内水面水産試験場が実施している鶴川親魚遡上調査の結果**や、**漁模様**から総合的に判断し、終漁日の決定を検討していただくようお願い致します。

連絡先 0143-22-2327  
調査研究部 管理増殖グループ